

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立唐津西高等学校
-----	-------------

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	教育方針の"First Choice「選ばれる西高を目指して」"をコンセプトに、全職員で組織的に、そして、協働的に教育活動に取り組んだ。特に、地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を教科指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かしながら、愛情と使命感を生徒指導に邁進した。全年4クラス体制となり、新たな唐津西高校の発進のために、ランドデザインのもと、来るべき社会である超スマート社会(Society5.0)を運く生き抜き、持続可能な社会の作り手として、ふるさと佐賀の郷土と自然を誇り思い、国際社会や我が国とともに地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成に努めていく。
2 学校教育目標	唐津西高校のランドデザインに基づき、育てる資質と能力「双松の力」(地域力・発信力・共感力・基礎力・解決力・人間力・表現力・自定力・継続力)を活用し、以下の人間の育成を図る。 ① Society5.0(超スマート社会)を運く生き抜き、持続可能な社会の作り手としての資質を持つ人間の育成 ② ふるさと唐津・佐賀の郷土と自然を誇りに思い、地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成
3 本年度の重点目標	① 地域に信頼される学校づくり ② 基礎学力の定着と多様な進路先の実現 ③ 特別活動・生徒会活動・ボランティア活動の充実

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

重点取組項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	評価項目	取組内容		成果指標(数値目標)	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●学力の向上	○教師の指導力の向上。 ○生徒の理解度の向上。	○生徒による授業評価の満足度の評価を80%以上とする。 ○教師が動画配信及びオンライン授業に取り組んでいる。	・授業見学会実施。(各教科2回以上) ・統一斉模試及び模試分析 ・ICT研修(27名)、Classi、オンライン等)実施 ・授業評価アンケートによる振り返りを各目録で行う。	A	・オンライン授業に向けて全生徒に対し動作確認を実施し、生徒向け研修会を3回、職員向け研修会を3回行った。 ・2学期実施した授業評価アンケートにおける生徒満足度の評価平均は88.0%とわずかながら向上した。	A	・授業の充実に向けてICTを積極的に効果的に使っている。 ・コロナ禍でもオンライン授業などの工夫により生徒満足度が維持されている。
	○進学意識の向上 ○多様な進路希望の達成と大学進学実績の向上	○大学進学希望者の割合70%以上 ○国立大学合格者25名以上 ○福岡の4年制私立大学進学者50名以上	・学年、教科、分掌と連携しながら、時機に応じた情報提供、集団指導、個別指導、講演会を企画し、実施する。 ・進路検討会の充実	・面接、小論文指導が必要な3年生延べ154名を全職員で指導し、放課後特設学習室等を活用した結果、公務員6名、高卒13名、私立大学110名(内福岡は68名)、国立大学18名の合格につながった。 ・進路検討会はそれぞれの学年で複数回実施し、個別指導に生かすことができた。	A	・全職員で対応していることがよい。 ・進路相談が充実していた。出願指導が丁寧であった。	A	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○情報モラルに関する意識及び知識を持つ生徒を80%以上とする。 ○登下校時はじめ、学校生活における「明るく挨拶・気持ちよい挨拶」の励行。	・「情報モラル教育講演会」及びLHR実施 ・人権学習・進路保障LHR実施 ・振興会朝の挨拶運動 ・ハナコフェア講演会	B	・人権学習・進路保障LHRを6月18日に全学年で実施。 ・振興会朝の挨拶運動を11月11-12日で実施。延べ24名の参加。 ・ハナコフェアで「西原さつき」氏を講師に招き10月13日実施。 ・HRや学年集会などで命の大切さについて指導を実施。	A	・外部講師を招くなど人権教育に力を入れている。 ・地域を知り、郷土愛を育む上でも唐津検定への取り組みは、引き続きやってほしい。 ・地域はかりでなく、広い視野を持ってほしい。 ・挨拶をはじめ、意識の高さが目に見えて伝わる。	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○教育活動アンケートの「いじめ防止」及び対応について「満足している」評価を85%以上を目指す。	・学校全体で多角的に生徒の状況を把握し、理解・支援する体制を作る。 ・生徒の欠席状況を確実に把握し、欠席が10日を超えた生徒には、ケース会議を行う。 ・情報共有シートの有効的な活用を図る。	A	・今年度、6件のいじめを認知した。生徒からの訴えや、欠席状況について担任と面談する中で発見したものであった。積極的に認知するといふ姿勢が早期対応につながったように思われる。 ・いじめ問題への対応について、満足しているという評価は94.6%であった。 ・今後も、情報共有シート等を用いて生徒の情報交換を行っていき、早期発見、早期対応に努めていきたい。	A	・いじめの早期発見・早期対応ができています。 ・いじめの発生を未然に防ぐための発見へ向け、生徒観察力を高めて欲しい。 ・相談しやすい雰囲気があると思う。	
●健康・体づくり	◎夢や希望の実現に向けて努力する教育活動の推進	○「唐津検定」合格者70% ○ルーブリック評価における「地域力」の生徒の自己評価を3.0以上を目指す。 ○キャリアパスポート(ポートフォリオ)を生徒全員100%が活用できることを目指す。	・「佐賀語り」等を活用したLHR ・唐津検定受験 ・ふるさと佐賀を誇りに思う教育講演会 ・総合的な探求の時間・特別活動を通して、キャリア教育の体制を構築する。 ・ルーブリック評価及びキャリアパスポート(ポートフォリオ)を定期的に活用し、的確な振り返りを行う。	A	・キャリアパスポートを記載し、1年間のまとめを行った。 ・唐津検定11月17日実施。 ・ふるさと佐賀を誇りに思う教育講演会を11月12日(月)実施。講師は佐賀県立創造塾運営理事長 山田健一郎氏。 ・1・2年生にCASプログラムを実施。年3回の講義・演習を行った。	A	・地域との交わりが学校の特色になっている。 ・地域を知り、郷土愛を育む上でも唐津検定への取り組みは、引き続きやってほしい。 ・地域はかりでなく、広い視野を持ってほしい教育も進む。	
	●「望ましい生活習慣の形成」(感染症予防対応) ○各科健康診断後の受診率向上	●感染症へのマナー・エチケット(うがい、手洗い等)の徹底を促し、80%以上の生徒の習慣づけを目指す。 ○受診率(内科)は30%、その他は80%を目指す。	・集会等での呼びかけや、教室・廊下のポスター掲示・保護だよりで、意識の向上を目指す。 ・学校1回以上の生活習慣アンケートを実施する。 ・学校医との連携を密にして、受診勧告及び啓発活動を行う。	B	・新型コロナウイルス感染症予防啓発のポスター掲示や呼びかけを継続したこと意識が向上しマスクの着用と手指消毒を習慣づけることができた。 ・受診率は内科(9%)、内科(14%)、耳鼻科(24%)、視力(30%)となり昨年度を下回った。インフルエンザ予防接種については10月に勤労文書を配布した。接種率(92%)は昨年度(41%)を上回った。	A	・受診率が前年を下回っており、向上への努力を求めていることは評価できる。 ・感染症に対する意識を高めて欲しい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○部活動の活性化	○部活動加入率95%以上を目指す。 ○リーダー育成	・部活動紹介の工夫 ・部活動の取り組みの共有 ・部活動のリーダー研修会	A	・接触機会の軽減がテーマの今年度において、研修会を開催することは困難であったが、活動の工夫等の提案をおこない、一定の成果はあったように感じる。また、部活動での表彰を受ける者が多くなったことは、県内外へ向けたい大きなPRになったと考えている。	A	・コロナ化で日頃の練習も難しい中で、成果を残していることは評価できる。 ・活性化がみえない部分がある。	
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●業務委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。 ○意識改革により、年間年次休暇取得平均14日を目指す。(5日未満の教職員0名にする。)	・定時退勤日、学校閉庁日、年休取得推進日、部活動休業日の設定。 ・ICT及び教職員の教育的技術の共有化による業務効率化。 ・学校行事の見直し及び廃止の実施。	B	・時間外勤務の平均は昨年と比べて30%減少している。コロナの影響もあるが、職員の意識改革も進んでいる。 ・年間年次休暇取得平均は約9日。5日未満の職員が7名であった。今年度は、休日の部活動引当りなどの取得は増加している。 ・コロナウイルス感染予防のための業務が増加している。負担を軽減した上で効果的な対応を模索していく。	B	・「先生」という魅力あふれる職業を守るためにも目標達成に向けて欲しい。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	評価項目	取組内容		成果指標(数値目標)	達成度(評価)	実施結果	評価
○特別活動の充実	○生徒会活動・ボランティア活動の充実	○クラスマッチ・双松祭を生徒主体で運営。 ○ボランティア活動の拡充し、ボランティアに対する意識を持つ生徒を50%以上を目指す。	・学校行事等の司会進行、双松祭の企画運営。 ・ボランティア部を中心とし、学校全体でボランティアに取り組む体制の構築。 ・キャリアパスポート(ポートフォリオ)の活用。	A	・学校行事の企画運営はこれまで通り、教員が行う年だったが、活動や取り組みに関しては、生徒会を中心に学校祭やクラスマッチ等において積極的に取り組み、生徒主体の活動となったと言える。これは、その他の行事や教育活動においても同様の機運の高まりが見受けられた。 ・キャリアパスポートに関しては、各学年が意欲的に取り組み、自身の経験の可視化に努めたことで、その効果を実感している場面が多かった。	A	・生徒会・ボランティアとも活発に活動している。 ・生徒会委員のやる気が伝わってきて、応援したくなる。
	○図書館の利用と読書活動の推進	○図書貸出し数年間2,500冊以上を目指す。	・新読書の継続的実施 ・図書館資料の積極的な更新 ・図書館便り毎月発行	B	・新読書は継続して実施することができた。 ・図書館資料を大規模な更新し、利用しやすい環境づくりに努めた。 ・図書館便り等の広報活動を十分に伝えなかった。 ・年間の図書貸出し数は約1,600冊にとどまり、利用は少なかつた。	B	・広報活動、貸出数の少なさを改善してほしい。 ・読書の習慣は大変だと思うので推進してほしい。
○地域に信頼される学校づくり	○開かれた学校づくり	○学校HPへの更新及びアクセス数の増加を目指す。 ○学校開放日における保護者の授業参観数を50名以上にす。 ○教育活動アンケートの「重点目標を知っている」保護者を60%以上を目指す。	・HP及びメール配信による学校の情報発信を行う。 ・中学生の学校見学会の内容の充実。 ・学校開放日能力ある内容にするともに、開催についての周知に努める。 ・地域のボランティア活動に積極的に取り組む。	A	・現在までに100回近の学校HP更新を行っており、記事によっては800回近のアクセスがあった。 ・学校見学会・説明会を休日に設定した。8月22日、11月6日参加。 ・教育活動アンケートでは、多くの項目で8割近く「満足している」評価を得られた。	A	・さまざまな活動の発信に努力されている。

●...県共通 ○...学校独自 ○...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	「双松の力」の育成を図り、全職員で組織的に、そして、協働的に教育活動に取り組んだ。特に、地域の人的・物的資源を活用し、保護者や地域の力を教科指導をはじめ学校教育活動全体に積極的に生かしながら、教育活動に邁進した。今年度はコロナ禍で、教育活動が制限や変更を余儀なくされる中でも、最大限の努力を尽くすべく工夫を行った。次年度も良い面は残し、不備な部分は改善していく。そして、新たな唐津西高校の発進のために、ランドデザインのもと、来るべき社会である超スマート社会(Society5.0)を運く生き抜き、持続可能な社会の作り手として、ふるさと佐賀の郷土と自然を誇り思い、国際社会や我が国とともに地域社会に貢献できる心豊かな志のある人間の育成に努めていく。
----------------	---